

霧島に80メガワットソーラー計画

市「業者へ反対伝達」

霧島市霧島田口に県内最大級となる発電出力80メガワットの大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設計画が浮上し、中重真一市長は26日、

「事業者や関連会社から現時点の事業計画の説明を受け、建設計画に反対である旨を伝えた」と明らかにした。

市議会一般質問で答えた。同市がメガソーラーの建設に反対するのは初めて。

市によると、事業者が県に環境影響評価（アセスメント）について問い合わせたとの

情報があり、2月上旬、庁内の情報共有会議に事業者らを招き、事業計画の説明を受け、反対を伝えた。

資源エネルギー庁の再生可能エネルギー発電事業計画の認定情報では、発電事業者は「合同会社霧島ソーラーフアーム」。

建設予定地は県道国分霧島線や霧島神宮、神話の里公園の展望所から眺望できる場所にあり、別荘地や学校、病院、老人ホームなどが近接する。

中重市長は答弁で、「歴史文化や自然環境、景観への影響、災害発生のリスクや住民の生活環境などで市としても大きな懸念を持っている」と述べた。

開発行為に対して市に法令などに基づく許可の権限はない。今後、

県の環境影響評価に向けた準備書や方法書の公告・縦覧、林地開発許可申請、土地利用対策要綱の協議などの際にある意見照会で、市としての見解を県に伝える方針。

（山下翔吾）